

第2回横浜市市有建物を活用した障害者雇用創出・就労啓発事業における運営事業者選定委員会 会議録	
日時	令和4年10月14日(金) 10時00分～11時30分
場所	横浜市庁舎 13-S03 会議室
出席者	眞保委員長、影山委員、小山委員、松田委員、内嶋委員、櫻山委員
欠席者	なし
開催形態	公開(一部非公開)
議題	<p>○ 議事</p> <p>(1) 会議の公開について</p> <p>(2) 選定基準の確認、財務諸表について</p> <p>(3) 応募事業者からのヒアリング</p> <p>(4) 採点</p> <p>(5) 選定(運営事業者候補決定)</p>
決定事項	<p>・運営事業者候補として「パーソルサンクス株式会社」を選定。</p> <p>・各委員から出た意見を事務局より運営事業者候補に伝えることとする。</p>
議題	<p>○ 議事</p> <p>(1) 会議の公開について</p> <p>今回の選定委員会について、「(3) 応募事業者からのヒアリング」までを要綱に基づき公開とすることを事務局から提案し、承認された。</p> <p>(2) 選定基準の確認、財務評価について</p> <p>【事務局】</p> <p>審査項目と配点比重について確認を行った。また、いずれかの項目の評価点で最低点(1点)を選択した委員がいた場合及び委員6名の合計点数(満点300点)が最低制限基準(6割(180点))に満たない場合は失格である旨を再度確認した。</p> <p>【櫻山委員】</p> <p>財務評価について、直近3か年の財務諸表を見る限りでは、取引(売上)のほとんどが親会社であり、外部からの借入れ等もないため、特に問題がある等の状況は見受けられなかった。</p> <p>(3) 応募事業者からのヒアリング</p> <p>(応募事業者によるプレゼンテーション)</p> <p>(委員による質疑)</p> <p>【影山委員】</p> <p>何点か質問がある。</p>

#### 質問 1

企画書の2ページ目に「存在意義」という言葉が出てくるが、企画書だけを拝見すると、雇用の質を高めるのではなく、量を確保する従来型の雇用という話に見える。雇用の質を確保するための取組みとしては、何が効果的とお考えなのか。それをどう進めていくかをお尋ねしたい。

#### 質問 2

企画書の4ページ目の原材料費率 16.2 パーセントは一般的にはそこまで高くないように思えるが、財務的には厳しいと記載がある。事業形態上特有の事情はあると思うが、なぜ、原材料費率が低い状態で財務状況が厳しくなるのか理由を教えてください。また、財務状況の悪化を防ぐ対策はとれるのか教えてください。

#### 質問 3

企画書の8ページ目の障害者社員数は今後増加していくということだったが、後半年度では増加せず、現状維持で推移している。年間のクッキー生産枚数は毎年度増加しているが、なぜ増えているのか。設備投資をするつもりなのか、簡単で構わないので教えてください。

#### 質問 4

障害理解を進める際に、クッキーをイベント等で売るだけでは、障害者が来て売っている程度にしか思われない。障害者がいる、仕事をしているではなく、障害者がこんなに頑張っているんだと示し、理解を進める取組として何か良い方法を考えていらっしゃるのか、教えてください。

#### 【応募事業者】

##### 質問 1 に対する回答

採用の実習において、一人ひとりの特性の部分の理解を進めていく。作業ができるか、できないかの判断をせずに、得手不得手を担当者側が十分に理解し本人へ伝え、双方の理解をもって雇用に進んでいけるかどうかを行っている。

##### 質問 2 に対する回答

障害者雇用として多くの人数を採用しており、障害者雇用に係る人件費分を十分に販売価格に転嫁しきれない部分が実情としてあるため、原材料費や消耗品費等、企業努力で下げているところは低減を図って、マイナスの幅を圧縮していく努力をしている。

##### 質問 3 に対する回答

設備投資や作業の自動化によって生産効率を上げていく訳ではない。工程を再構築し、一日の生産枚数を増加させていく計画にしているため、障害のある社員の能力の向上、成長に紐づいて

いる。これまでの数年間のなかで、型を抜くスピードや抜き方、オーブンで焼くタイミング等を変え、1日にできる量を増やしていく工夫をしながら、対応できる生産枚数を増やしていつている状況。

#### 質問4に対する回答

クッキーへのアイシング、デコレーションも障害のある社員が行っている。大人の塗り絵を使って練習し、最初は点、次に線、続いて点と線の組み合わせ、複雑な模様まですべて障害のある社員が作業を行っている。実際の作業や工房の中の仕事の様子をお見せすることで、固定観念の打破ができる障害理解が可能と考えている。

#### 【小山委員】

企画書の6、7ページ目に事業展開の3つのテーマに地域イベントの参加範囲拡大とある。今までどのような実績があったのか、今後どのような施設、形で拡大していくのか。具体的なことを教えていただきたい。

#### 【応募事業者】

浦舟複合福祉施設の1階で毎週クッキーの販売会を行うほか、地域のお祭り・バザーに参加してきた。他にも独自の企画で、ショコラティエを招いてパンケーキのセミナーを開催し、近隣の特別支援学校に通っている生徒、家族とケーキ作りを行うなど、障害の有無関係なく社員と一緒にやってきた。今後拡大という観点では、特別支援学校生の働くための実習とは別に、販売会・見学会を独自に企画し、声掛けをしてお越しいただこうと思っている。もう一点、市内で関わりのある企業に声をかけ、見学やクリスマスの販売会に障害のある社員が参加し、交流を図ることや理解を深めるためにクッキー製造の動画を流しながら販売する計画を持っている。

#### 【内嶋委員】

取引先は親会社が多いと思うが、販路の割合を教えてください。

#### 【応募事業者】

グループが9割ほど、外部及び個人購入が1割となっている。グループ内の1社だけに依存しているのではなく複数社から、顧客先に訪問する際の手土産、イベントの参加賞、社員の誕生日のギフト等で業務をもらって展開している状況。

#### 【内嶋委員】

親会社と子会社の協力体制は理解した。市民への一般普及を考えると、もう少し販路を外部へ拡大してほしい。

**【松田委員】**

特例子会社としての実績はあるが、親会社からの赤字の補填が大きいとの報告もあるので、事業をやっていることによって親会社の業績に変化はあるのか。

**【応募事業者】**

定量的に計りにくい事業だが、期待はされている。施策の一つであるグループのファンづくりのため、障害者が関わるクッキーについて派遣社員・企業にプレゼンテーションを行い、社会性を問うような PR 展開を計画している。売上利益が何パーセント上がる等はわからないが、グループ内の期待値はとて高くなっている。ダイバーシティの発想やビジネスとしての考え方・捉え方が当てはまっている。

**【影山委員】**

本社の方で、SDG s に取り組まれていると思うが、SDG インパクトスタンダードという認定基準を国連が作成した。企業が記入するチェックリストに、取組みによって自社の付加価値がどれだけ上がったかを記載する項目がある。こちらは、企業イメージではなく、付加価値を書く必要があり、国連はそこまで求めている。付加価値を簡単に計算できないのは仰る通りだが、今は求められる時代になってきている。お客様もしくは従業員の満足度を測定する中に、障害者雇用の項目を入れる企業も増えてきたが、そちらは取り組まれているのか。

**【応募事業者】**

本社の方で検討はしていると思う。社員満足度調査を毎年行っているが、現時点ではグループ内の障害者雇用や啓発の項目を定量化できていない。自社の存在意義として、法定雇用率を満たすだけではないという基準づくりを始めている。定量的な付加価値を計るような項目出しまでには至っていないが、取り組みはしている。

**【影山委員】**

先ほどのプレゼンテーションの中で仰った仕事の質という言葉は、業務品質と雇用の質の両方に係ってくる側面がある。まだ、こちらについての取組みが薄いという印象がある。雇用の質、特性理解は中小企業でも行っているため、このような事業体であればこそその雇用の質の確保の仕方があると良い。障害者雇用の広がり方で、単に障害者が働いているではなく、雇用のノウハウも企業は求めているところがあるため、人事部を通して取組みが周知されていく側面があると思う。戦略的にどう理解を進めていくのか、色々なルートがあると思う。例えば、オーガニックのクッキーを販売するなど、かなり高コストになるが、美味しいから売れる、というのもある。安く売るか高く売るか戦略だけでなく、品質を良くして高く売るというやり方をとり、障害者を雇用しているところもある。美味しければ売れる。コストはかなりかかると思うが、そのような戦略は考えているのか。

#### 【応募事業者】

障害者の働きぶりを PR していきたいという思いは持っている。良くも悪くも9割方親会社からの大量ロットのため、安定的に仕事ができている中で雇用拡大、継続が行えている。

神奈川県横須賀市で農福連携 農家の農作業を受託する仕事を事業として行っている。農家の作物とのコラボレーションで事業所ブランドのクッキーの商品開発を始めている。グループが目指そうとする方針と、障害者雇用の中で立ち上げてきた事業のコラボレーションの中から、形としては、クッキーの素材や飾るものを別の地域の農作物と組み合わせてブランディングしている。社内販売の機会があるため、イベントに乗じて行っている状況。

#### 【影山委員】

良い取り組みだと思う。生命保険株式会社の特例子会社でもクッキーを製造している例があるが、独立採算でやっている。特例子会社の維持のために本社が買っていると特例子会社がそれに甘んじてしまう。障害理解を進めるためにも、市民の方に売っていく、届けるということを考えると、価格戦略や品質の戦略を考えないといけないので、そちらを念頭に置いていただけるとよろしいと思う。

#### 【眞保委員長】

雇用の質をどうやって計るのか、難しく色々な議論があるとは思いますが、黒字にしていくというのは大きいと思っている。どんなに障害のある方に技能形成していても、決算が赤字だと説得力が弱いと感じる。すぐには言わないが、黒字にしている特例子会社もあるので、最終的に黒字にできるといい。

また、長期的に個別の従業員のことを考えると、今後特例子会社の中から親会社での基幹的な仕事につけていく、親会社でともに働くというのも理解促進だと思う。短期的な目標だと、障害のある方のリーダー制度があるのか、あるなら企画書に書いてあると良かった。

そのほか、製造業を中心に技能形成する際、障害がない方のものづくりの世界で、仕事表のような形で、どの職務はどの職員がどの程度までできるというのを可視化しているものを作っている例もある。記録をして、能力開発を続けているのだと、より難しい仕事にチャレンジをして、そちらがマスターできるということを恐らくされていると思うが、今後少し丁寧に可視化する必要があると感じた。

厳しい中とは思いますが、今後とも横浜の市民に障害者雇用や障害者が活躍している姿を紹介するよう努めていただけるといいと思っている。

#### (4) 採点

(各自審査シートへ記入)

**(5) 選定**

審査項目に沿って事務局が合計点数を報告し、別紙のとおり応募事業者が選定基準を満たしていることから、パーソルサンクス株式会社を運営事業者候補に選定することを決定した。

事務局より、今後は、横浜市障害者施策推進協議会に本委員会で選定された運営事業者候補を諮り、決定する旨を説明。